

むらやま 2 学級の実践

指導者 小松 悦子

1 教科 国語

2 単元名 カンジーはかせの音訓遊び歌

3 単元の目標

(1) 児童の実態

むらやま 2 は 3 年生男子 1 名の学級である。むらやま 2 教室では国語・算数・道徳・自立活動を個別で行っている。話し合いの活動については児童と教師の考えを言い合いながら、考えをまとめたり、修正し合ったりして楽しい授業になるように取り組んでいる。国語の物語文で人物の心情を読み取るなど相手の気持ちや考えを言うのは苦手であるが、説明文での内容の読み取りや漢字学習には興味を持って取り組んでいる。このカンジーはかせの音訓遊び歌でも漢字の音や訓の読み方に大変興味を示したのでカルタ作りやカルタ遊びをする中で相手の作った歌の意味を考えさせたり、カルタ取りをする中でコミュニケーションを図るもとなる力をつけていきたいと考えた。

(2) 教材について

この教材は一つの漢字について、音読みと訓読みが同じに学べる学習である。リズムにのりながら何度も音読することで漢字の読みを自然に身につけるようにさせたい。そこで、教師と共にカルタを読み合いながら、五・七・五形式を踏まえた川柳を作る活動を含めて、楽しい活動にしている。特に、作った川柳の意味を話し合う中で、リズムを持って、歌い合ってみたり、カルタ取りをしたりして楽しむ活動にすることで活用についての意識も身につけさせたい。

5 指導計画

次・時	学 習 活 動
1 1	○「カンジーはかせの音訓遊び歌」を音読する。 ・新出漢字・読み替え漢字の確認をする。
2 2	○「送りがな」を読んで、送りがなの大切さを知り、注意する点を確認する。 ・音訓ゲームをする。 ・新出漢字・特別な読みをする漢字を確認する。
	○送りがなによって、意味が変わる言葉を探して短い文を作らせる。 ・正しい文を作った時は大いに褒める。

		・送りがなゲームをする。
3	3	○音訓遊び歌のカルタを作りをして、言語感覚を磨く。
	4	・教師と児童に別れて、カルタ作りをする。
	5	・読み札に文を丁寧に書くことを重点におかせる。
		○カルタ遊びをする。
		・読み手と役割交代をして、楽しく遊ぶようにする。

6 参考資料



7 成果と課題

・漢字の音と訓を使ってのゲームをすることで、音・訓について興味を深めると共に楽しんでゲームをすることができた。また、ゲームをすることで楽しみながら言語感覚を磨くこともできた。

・カルタ作りをする中で文を作った人の気持ちを話し合いながら、相手とのコミュニケーションを深めることができた。教師対子どもでも楽しくできたので今度はさらに多くの子ども達とカルタ取りをさせて、コミュニケーションを深めさせたい。